

2℃が限度

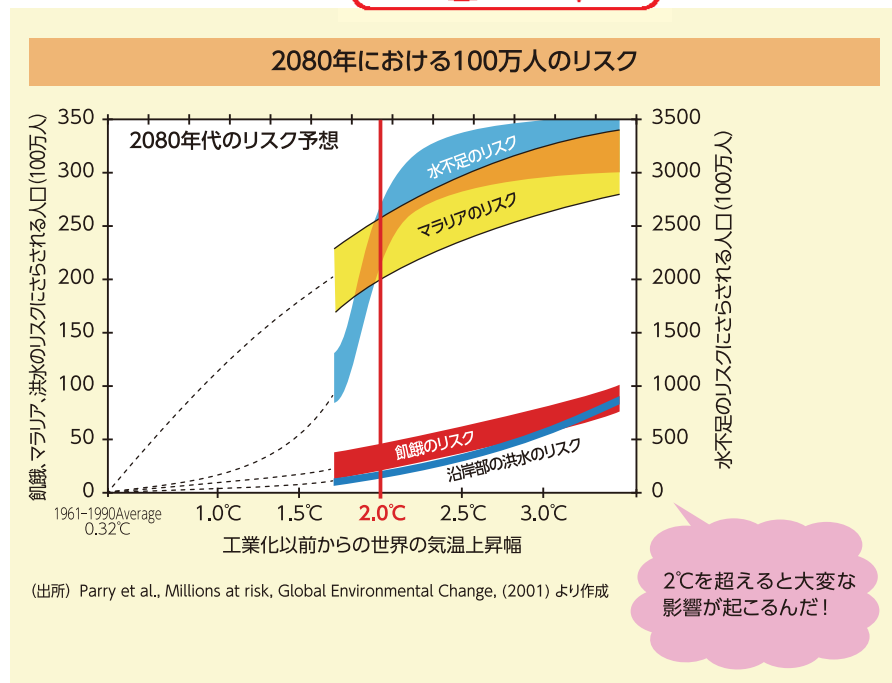


工業化以前（1850年頃）からの平均気温の上昇が2℃を超えると、アジア全体で10億人が、アフリカ全体でも6億人を超える人々が、水不足や洪水といった水ストレスにさらされると予測されています。また、海の生物の25～33%の命を支え、10億人の食料源となっているサンゴ礁の白化・消滅、海面上昇による小島しょ国の国土の喪失、また、地球全体で40%もの生物種が絶滅のリスクに晒される可能性があると言われています。

このことは、工業化（1850年頃）以前から2℃を超える平均気温の上昇は、地球規模の回復不可能な環境破壊により人類の健全な生存が脅かす可能性があることを示しています。

図は2080年において、2℃を超えると世界のどのくらいの人々が、水不足、マラリア感染、飢餓、洪水について検討したものです*。水不足のリスクは右目盛り、マラリア・飢餓・洪水については左目盛りです。もっとも深刻なのは水不足で、2℃を超えると2080年代には30億人超の人々が水不足のリスクにさらされる可能性が示されています。

見本



* 1986～2005年を基準とした変化

2℃を超えるまで30年足らず



CO₂の総排出量と平均気温の上昇は比例関係

CO₂の累積総排出量と世界平均地上気温の上昇は、ほぼ比例関係にある。(25頁)

AR5では、これまでに排出されたCO₂の総排出量(累積排出量)と平均気温の上昇量は比例関係にあるという新しい見解が出されました。

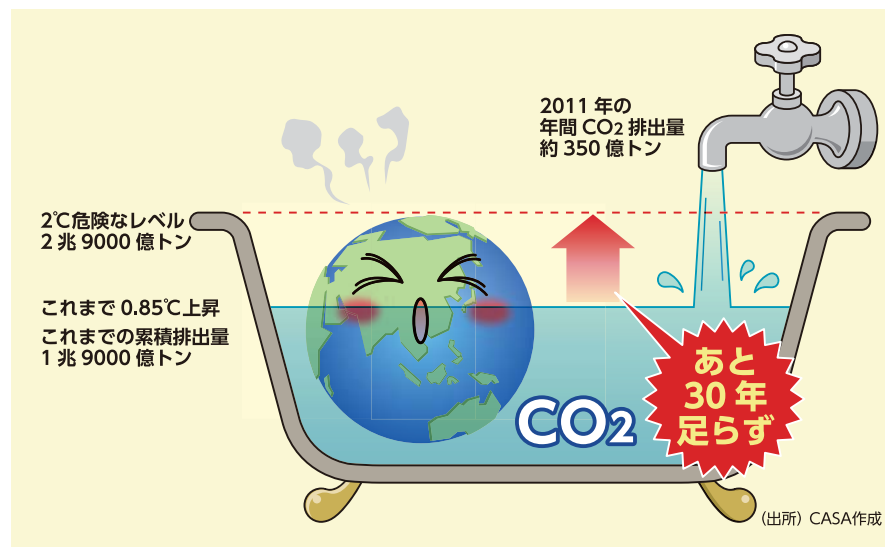
このことは、CO₂累積排出量から将来の気温上昇量が、また気温上昇量からその時のCO₂累積排出量が、それぞれ予測できることを意味します。

2℃を超えるまで後30年足らず

人為的な CO₂ 排出のみによる温暖化を、66%の確率で1861～1880年の平均から2℃未満に抑えるには、同期間以降の全ての人為的発生源からの累積 CO₂ 排出量を2兆9000億トン*に抑える必要がある。2011年までに1兆8900億トンのCO₂がすでに排出された。(25頁)

見本

工業化した頃からの平均気温の上昇を2℃未満に抑えるための、累積排出量について、人為起源のCO₂累積排出量を約2兆9000億トンにする必要があります。しかし私たちは2011年までにすでに約1兆9000億トンを排出してしまっているため、残された量は約1兆トンに過ぎません。一方、現在の人為的なCO₂排出量は年間350億トンにのぼります。つまり現在のCO₂排出量のままでも30年足らずで2℃を超えてしまうことになります。



* AR5は、ギガトン(1Gt=10億トン)の単位を用いています。